

豊島区大改造プロジェクト 新たなステージの展開

街が変わる街を変える



豊島区
平成28年1月



豊島新時代を切り拓く

平成27年5月、区民の皆さんの大きな期待を背負った豊島区の新庁舎が、開庁いたしました。

新庁舎は、市街地再開発の手法を活用し、「商業・業務」「行政」「住宅」が一体となった、これまでの庁舎の常識を打ち破る画期的な施設です。この整備が成功したことで、周辺地域におけるまちづくりの機運は大いに高まりました。

また、新庁舎整備の資金を生み出した旧庁舎跡地活用事業の優先交渉権者が決まり、8つの劇場による劇的な空間、女性にやさしいパブリックトイレ、多言語対応のインフォメーションなど、国際アート・カルチャー都市の顔として生まれ変わる旧庁舎跡地周辺の将来像が明確になってきました。

さらに、平成27年7月には、池袋駅周辺が特定都市再生緊急整備地域に指定され、8月には本区も国家戦略特区として指定を受けました。豊島区は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた国際的拠点として、国家的プロジェクトの中に位置づけられたのです。

このため、地権者や民間事業者のまちづくり機運が高まり、造幣局東京支局跡地の防災公園整備、池袋駅の東口・西口の駅前空間の整備、さらには東西連絡デッキなどの大きなプロジェクトが連鎖的に進んでいこうとしています。

まさに、新庁舎整備の成功が引き金となって、池袋副都心の再生が連鎖的に加速化していこうとしているのです。

一方、平成26年5月、豊島区は日本創成会議によって23区唯一の「消滅可能性都市」とされました。直ちに、緊急対策本部で対策を検討し、「女性にやさしいまちづくり」「高齢化への対応」「地方との共生」「日本の推進力」という4本柱を打ち出して、消滅可能性都市から持続発展都市への転換を目指して積極的に対策を推進してきました。

本書は、こうした豊島区の最新動向と将来像について、区民の皆様にわかりやすくお示しするためにまとめたものです。

皆さん、ともに豊島区の明るい未来を築いていきましょう。

平成28年1月
豊島区長

高野之史

C O N T E N T S

目次

豊島新時代に向けた新たな都市づくり

消滅可能性都市から持続発展都市へ 3

新庁舎整備から連鎖的に広がる池袋副都心の再生 4

まちの魅力を高め、未来に向けて輝きを放つ都市を創造する施策の展開

(副都心再生)

1 新庁舎が創出する多彩な機能 5

2 旧庁舎跡地の活用と周辺まちづくりの推進 7

3 池袋駅東西連絡デッキの整備 11

4 造幣局東京支局跡地の整備 12

5 魅力的な歩行者空間の創出 13

6 南池袋公園・自転車駐車場の整備 14

(アート・カルチャー)

7 世界の人々を惹きつける国際アート・カルチャー都市 15

8 雑司が谷の未来遺産活動 17

9 豊島ブランド、街のシンボル（ソメイヨシノ、ふくろう） 18

10 演劇・美術のまち 19

11 マンガ・アニメの聖地 20

(住み続けたいまち)

12 女性にやさしいまちづくり 21

13 セーフコミュニティの展開 23

14 繁華街の安全・安心対策 25

15 福祉基盤整備の推進 26

16 池袋第三小学校の整備 27

17 池袋本町地区校舎併設型小中連携校の整備 28

(人間優先の都市づくり)

18 不燃化特区と特定整備路線の整備 29

19 街並みを変える無電柱化事業の推進 30

20 立教通りの整備 31

21 大塚駅周辺の整備 32

明日の豊島区のまちの姿 33

豊島新時代に向けた新たな

消滅可能性都市から持続発展都市へ

平成26年5月8日、日本創成会議（民間の有識者会議）により豊島区は23区で唯一「消滅可能性都市」として発表されました。区では直ちに、区長を本部長とする緊急対策本部を設置し、それまで推進してきた「選ばれるまちづくり」を加速化するさまざまな対策を打ち出しました。これからも安全・安心で価値あるまちづくりを展開するとともに、首都東京の自治体としての役割を果たすという視点のもと、4つの対策の柱を掲げて持続発展都市づくりを進めていきます。

次代を担う子どもたちや女性人口は緩やかに増加していますが、この発表を一つの警鐘と受け止め、**ピンチを飛躍のチャンスに転換！**

消滅可能性都市

若年女性(20～39歳)が2040年までに50%以上減少すると推計された自治体(全国で896市区町村、全体の49.8%)。若年女性が50%以上減少すると、出生率が上昇しても人口の維持は困難であるとされています。

対策の4つの柱

①女性にやさしいまちづくり

出産前から切れ目のない子育て支援を行い、「産みたい」「育てたい」を横断的に支援します。

②高齢化への対応

高齢になっても、元気で、生きがいをもって、安心して暮らすことができるまちづくりを推進します。

③地方との共生

交流自治体との連携を深め、都市と地方における相互補完モデルの構築を模索します。

④日本の推進力

豊島区が誇る芸術・文化の魅力を世界に向けて発信し、人と産業を惹きつけ、世界中から人が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進します。

としま F1 会議

としま鬼子母神プロジェクト

女性の起業支援

リノベーションまちづくり

圏域外特養ホームの検討

日本版 CCRC 構想の推進

国際アート・カルチャー都市構想

など

安全・安心創造都市

文化創造都市

豊島区は、日本一の高密都市でありながらも四季の彩りに包まれながら、安全・安心で快適に暮らすことができ、多様な文化資源を有機的に活用することで賑わいと活力にあふれた、誰もが住みたい、訪れたいと思うまちづくりを実践してきました。



新庁舎整備から連鎖的に広がる池袋副都心の再生

新庁舎整備を契機として、池袋副都心の再生が連鎖的に広がっています。旧庁舎跡地周辺の開発や造幣局移転後の跡地活用、池袋西口駅前街区のまちづくりなど、国家的なプロジェクトの仕組みを活かしながら、世界都市東京の中で個性と存在感を発揮する国際アート・カルチャー都市として、ダイナミックに変貌していきます。

特定都市再生緊急整備地域の指定 (H27.7.24)

都市の国際競争力の強化を図る上で特に有効な地域として政令で指定された地域で、池袋駅周辺地域（143ha）が都内で5地域目として指定されました（全国では12地域）。



池袋駅周辺地域

(旧庁舎跡地開発)

- ・都市機能の更新にあわせた文化・芸術等の育成・創造・発信・交流などの機能強化により、国際アート・カルチャー都市の形成



(池袋駅西口地区)

- ・駅とまちとの一体的な空間づくりを進め、「ひと」が主役の魅力と賑わいにあふれた新たな池袋西口のゲートを創出



【現状】

国家戦略特区の区域拡大 (H27.8.28)

産業の国際競争力の強化や国際的な経済活動の拠点の形成を推進するため、国が定める特別区域で規制を緩和。区域の拡大により豊島区も国家戦略特区となり、都市の魅力向上等に向けた規制緩和メニューの活用を進めます。

第一次指定 (H26.5.1)

東京都では 9 区

第二次指定 (H27.8.28)

東京都は全域に拡大

8月28日
豊島区も
国家戦略特区に！

まちの魅力を高め、未来に向けて輝きを放つ都市を創造する施策の展開

副都心再生

1 新庁舎が創出する多彩な機能

最先端の区民サービス

345日開庁

総合窓口（3階）と福祉総合フロア（4階）は、年末年始を除いた土曜日・日曜日すべて開庁しています。またコールセンターを年中無休で開設し、お問い合わせに対応しています。



総合窓口

ワンフロアを広く確保し、窓口機能を集約するとともに、ITを活用することで、効率的に用件を済ませることができる便利な窓口を実現しています。



福祉総合フロア

子育てや福祉に関する課をワンフロアに配置し、子どもから高齢者までのライフスタイルに応じた様々な相談や手続きが連携してできる福祉総合フロアを実現します。



災害対策センター

区内51か所の防災カメラにより被災状況を正確に把握する最新鋭の総合防災システムを備え、災害時の司令塔として区民の安全・安心の拠点となります。



総合防災訓練の災害対策本部



子育てインフォメーションの室内



議場

区民の皆さんが快適に傍聴でき、議会が開かれていない時には、区民が参加する大きな会議や国際会議にも使用できる造りとなっています。

区民に開かれた魅力あふれる多機能庁舎

環境庁舎

太陽光発電、緑化パネルなどのエコヴェールや、雨水利用による水循環システムなど最新技術を導入し、エネルギーを生み出すとともに、環境負荷を軽減しています。



豊島の森

かつての豊島区の自然環境を体感できる屋上庭園やグリーンテラスを整備し、小中学校の環境教育にも活用しています。



まるごとミュージアム

庁舎内を回遊しながら、区の歴史資産や美術・工芸品を鑑賞できるほか、デジタルミュージアムシステムによる絵画作品などを公開しています。



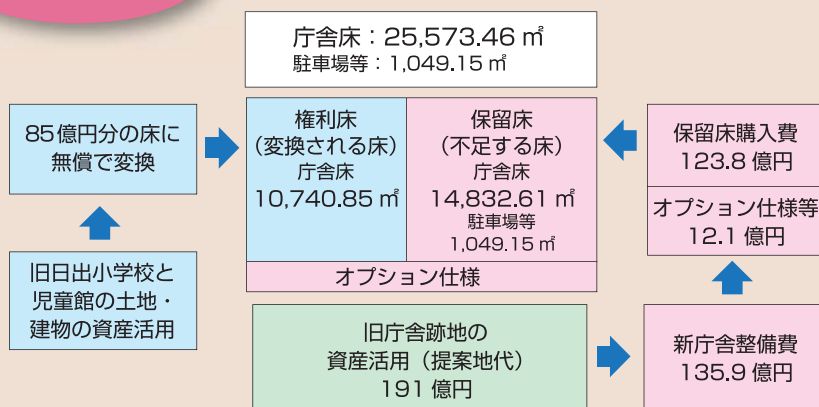
としまセンタースクエア

区の行事や展示・発表会など多様な区民活動に利用することができ、災害時には、被災情報の提供や生活相談などの場として活用していきます。



整備手法

区が所有する資産を活用し、新たな借金をせず、庁舎を整備しました。



市街地再開発事業では、区所有の土地・建物の財産が、再開発建物の床に変換され、庁舎に必要な専有面積の一部を無償で取得しました。不足する床は、区が再開発組合から買入れました。買入れの資金については、旧庁舎敷地と公会堂・分庁舎敷地を定期借地で民間事業者へ貸し付けます。

2 旧庁舎跡地の活用と周辺まちづくりの推進

旧庁舎跡地の活用による文化にぎわい拠点の形成 ●●●●●●●●●●

旧庁舎跡地（旧日本庁舎敷地及び公会堂敷地）は、定期借地方式により民間活用します。

この民間活用は、定期借地権の一括前払い地代 191 億円の一部を新庁舎整備費用の財源に充当するとともに、1,300 席の新ホールと民間施設（オフィス、にぎわい施設等）で、国際アート・カルチャー都市の顔となる文化にぎわい拠点と新たなランドマークを創出することを目的としています。

民間事業者は、旧日本庁舎敷地にオフィス棟を、公会堂敷地に新ホール棟を整備します。新ホール棟に整備される新ホールは、完成後、区が買い取ります。

また、区は同時期に区民センターを改築し、区民の皆さんの利用しやすい約 500 人・約 160 人収容のホールと、女性や子ども連れの来街者にやさしい大規模なパブリックトイレや子育て支援スペース等を整備します。あわせて、周辺の公園・道路を一体的に整備します。

池袋の新たなシンボルとなるオフィスタワー



旧庁舎エリアに「8つの劇場」を含む国際的な文化にぎわい拠点が
2020 年春誕生

新ホール・新区民センター
2019年秋オープン予定

明治通りからの外観

※現時点での計画をイメージとして描いたものであり、今後変更となる可能性があります。

「国際アート・カルチャー都市」のシンボルとなる オシャレなエリアを目指して

公園から見た3つの建物は外観と低層部の演出を統一したデザインとなり、新ホール棟を中心とした二つの路上デッキが「8つの劇場」へとつながります。また、高さ10メートルにもなる透明な低層部が施設の内・外の一体感を高めます。

オフィス棟

新ホール棟

新区民センター



※現時点での計画をイメージとして描いたものであり、今後変更となる可能性があります。



※現時点での計画をイメージとして描いたものであり、今後変更となる可能性があります。

<p>■オフィス棟</p> <p>劇場4 シネマコンプレックス [10スクリーン約1,800席] (2~6階)</p> <p>劇場6 カンファレンスホール [約400席] (7階)</p> <p>劇場8 シネマプラザ 外からも見える階段状のイベントスペース [約150人] (1階)</p> <p style="text-align: center;">←路上デッキ</p>	<p>■新ホール棟</p> <p>劇場1 新ホール [1,300席] (2~8階) 多彩な公演に対応するホール、多言語対応</p> <p>劇場5 ライブ劇場 [約160席] (1階半地下)</p> <p>劇場7 パークプラザ 外からも見える階段状のイベントスペース [約300人] (1階)</p> <p style="text-align: center;">←路上デッキ</p>	<p>■新区民センター</p> <p>劇場2 多目的ホール [平土間 約500人] (8~9階)</p> <p>劇場3 小ホール [平土間 約160人] (6階)</p> <p>◇2~3階 ・大規模な女性用トイレ (35ブース設置) ・パウダールーム、フィッティングルーム ・パパママ☆すぽっと など</p> <p>◇1階 多言語対応の総合インフォメーション チケットセンター</p>
---	---	---

(仮称) 豊島区新ホール



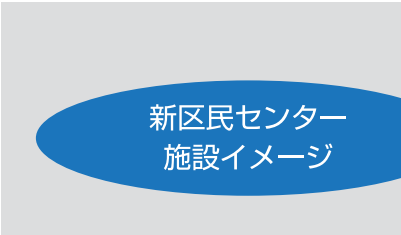
新ホールのイメージ

新ホールは、1,300席を有する多目的ホールとして整備されます。様々な文化芸術活動の拠点として、ミュージカル、宝塚歌劇、歌舞伎、バレエ、オペラ、伝統芸能、コンサート等の公演に加えて、成人式や学校行事等の多種多様な使われ方に対応できる高い性能を備えます。また、プロユースから区民利用まで多様なニーズに応える機能・設備を備えます。

階	主な用途
8階	空調機械室等
7階	客席(269席)
6階	客席(284席)
5階	客席(747席)、舞台
4階	
3階	楽屋、アーティストラウンジ
2階	もぎり、店舗等
1階	パークプラザ、ライブ劇場、店舗等
B1階	駐車場、機械室等



新ホールホワイエのイメージ



新区民センター多目的ホールでのレセプションのイメージ

スケジュール(想定)

	平成27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
オフィス棟	設計	解体	工事			
新ホール棟	設計	解体	工事		秋～柿落とし公演準備	東京オリンピック・パラリンピック 春・グランドオープン
新区民センター	設計	解体	工事			



新区民センター小ホールでのコーラスのイメージ

豊島区新区民センター

新区民センターは、多目的ホール（平土間約500人収容）、小ホール（約160人収容）、会議室等を備えた、区民に使いやすい様々な活動拠点として、生活産業プラザと一体的な整備を進めます。

2階、3階には、大規模なパブリックトイレ（女性用計35ブース）や、コスプレイヤーなどの利用を想定したフィッシングコーナーやパウダーコーナーを設置します。

さらに2階の一部には、授乳室等を配置した「パパママ☆すぽと」を整備し、子育て世帯の外出を支援します。



新区民センターエントランスのイメージ

階	主な用途
9階	多目的ホール（2階席） 展望ラウンジ
8階	多目的ホール（平土間）、ホワイエ
7階	控室、防音室、貸会議室
6階	小ホール、防音室、貸会議室
5階	貸会議室、技術実習室
4階	貸会議室、管理事務室
3階	パブリックトイレ、管理事務室
2階	パブリックトイレ、パパママ☆すぽと
1階	インフォメーションセンター カフェ、エントランスホール
B1階	機械室、電気室、駐輪場

トイレから広がる女性にやさしいまちづくり

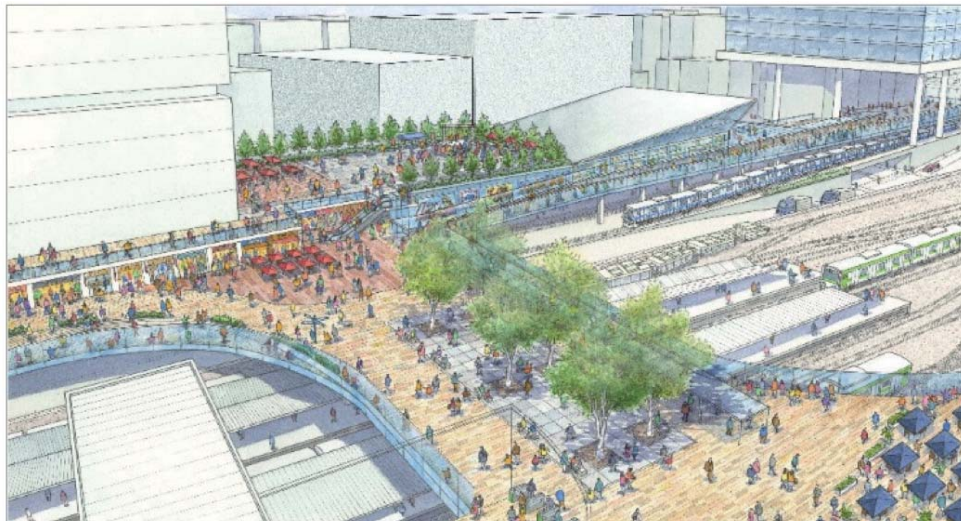
ハンディキャップのある方や高齢者はもちろん、あらゆる世代の女性たちが安心して楽しめるまちにしていけるための環境整備の一つとして、検討していきます。



3 池袋駅東西連絡デッキの整備

平成 27 年 3 月に策定した「池袋駅東西連絡通路（東西デッキ）整備基本構想」に基づき、池袋駅線路上空に「北デッキ」と「南デッキ」の2つの東西デッキを整備します。

整備にあたっては、池袋駅地下通路の混雑緩和など、駅全体の利用者動線の円滑化を図るため、駅の上空と地下に分かりやすいルートを設定し、東西の回遊性を確保します。



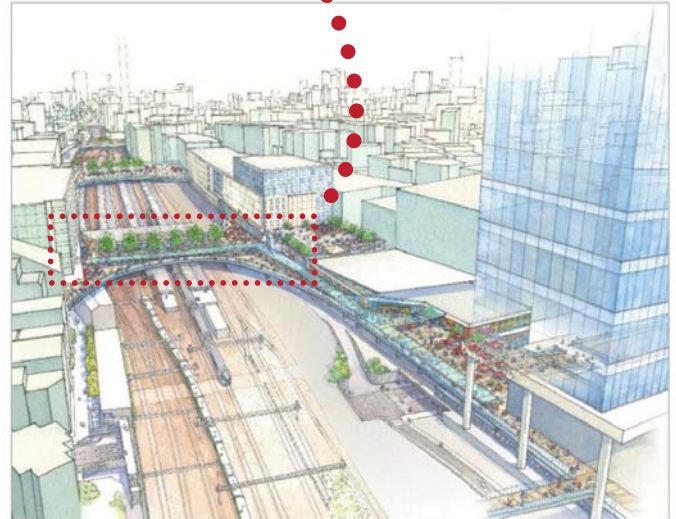
東西デッキ（南デッキ）
整備イメージ

東西デッキ
整備イメージ

東西デッキ整備の目的

- 1 首都直下地震への早急な対策の推進
- 2 快適な移動空間の整備推進
- 3 池袋副都心における都市整備プロジェクトの連鎖的推進

※この2つのイメージは、個別施設のレイアウト及び通路幅員等の形状や位置は、現段階における素案であり、確定したものではありません。今後、権利者・関係者と協議し計画を進めていきます。



スケジュール（南デッキ）

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度～
★デッキ整備基本構想 策定	●南デッキ整備方針の調整 ●詳細調査・検針 ・施工に向けた詳細調査 ・施工条件の整理	★デッキ整備基本計画 策定	●南デッキの概略設計	●南デッキの詳細設計		南デッキ工事着工

4 造幣局東京支局跡地の整備

造幣局東京支局移転による大規模な土地利用転換にあわせて、池袋副都心と木造住宅密集地域に隣接する立地特性に配慮し、災害に強く、文化とにぎわいを創出する活力ある都市機能の誘導により市街地と防災公園を一体的に形成します。

造幣局地区街づくり計画
(土地利用方針図)



※造幣局東京支局はさいたま新都心に移転し、平成28年10月の操業を予定しています。



現在の造幣局地区



防災公園整備イメージ

スケジュール

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
★造幣局地区まちづくり計画・防災公園基本計画策定	★全体協定締結 ★まちづくりに係る基本協定締結・防災公園基本協定締結	実施設計	公園整備工事		公園整備完了 供用開始	

5 魅力的な歩行者空間の創出

グリーン大通りオープンカフェ.....

平成26年から3回の社会実験で、オープンカフェ、マルシェによる賑わい創出効果や交通の安全確保について検証を行いました。グリーン大通りにおけるまちづくりを継続的に行うにあたり、当該エリアの土地建物所有者、テナントなどをメンバーとして、グリーン大通りエリアマネジメント協議会を設立しました。

認定を予定している国家戦略特区による道路法の特例を活用し、当該エリアの賑わいのさらなる創出に向けて、オープンカフェ、マルシェの運営やイベントを実施するとともに公共貢献の取組みを検討していきます。

社会実験 (オープンカフェ・マルシェ)



飲食エリアの風景



マルシェ
(フランス語で「市場」)

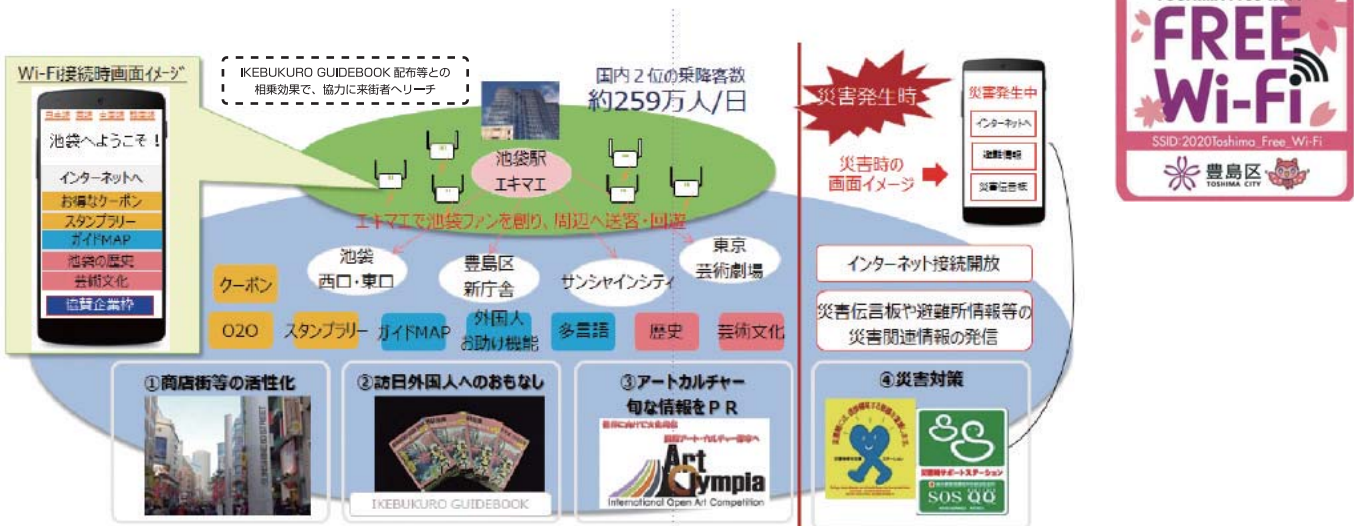


オープンカフェ

無料Wi-Fiの整備.....

訪日外国人の「フリー Wi-Fi が少なく不便だ」の声に応えるため、「TOSHIMA Free Wi-Fi」の整備に取り組んでいます。

Wi-Fi 接続時には、観光情報を掲載したページにアクセスすることで、来街者が快適に観光を楽しめるよう「TOSHIMA Free Wi-Fi」の活用を試みています。



6

南池袋公園・自転車駐車場の整備

南池袋公園の地下空間を活用し、東京電力による地下変電所の整備が完了しました。地下1階部分は東京電力から無償提供を受け、1,084台収容の自転車駐車場を整備しました。これらの工事に引き続き、地上部は池袋副都心にふさわしい、緑豊かなにぎわいのある公園空間を整備します。



南池袋公園整備イメージ

飲食店を設置します



池袋駅南自転車駐車場

スケジュール

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
自転車駐車場		自転車駐車場工事	開設			
変電所		変電所工事				
公園				公園復旧工事		開設 平成 28 年 4 月

7 世界の人々を惹きつける国際アート・カルチャー都市

豊島区が誇るアート・カルチャーの魅力の世界に向けて発信し、人と産業を惹

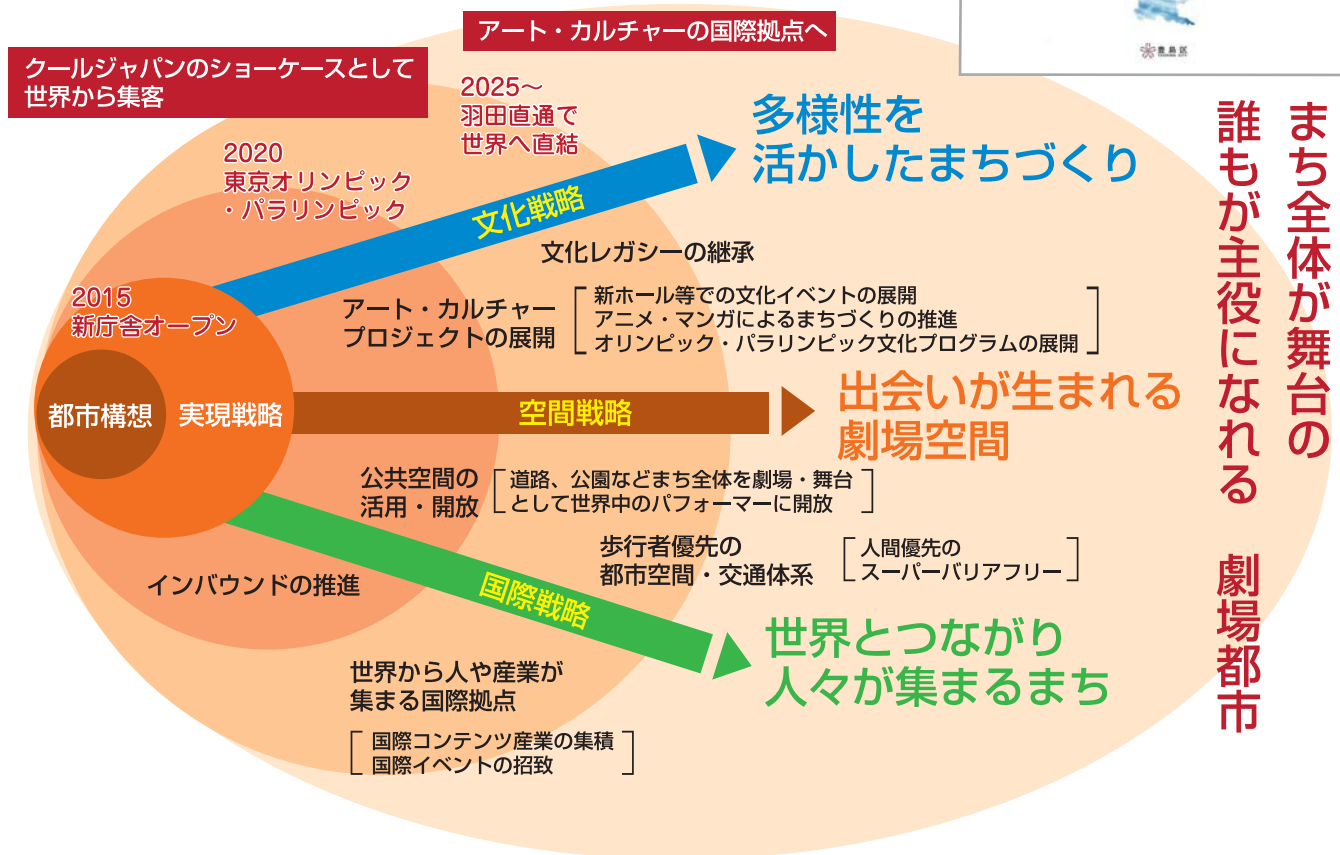
国際アート・カルチャー都市構想と実現戦略

平成27年3月、11名の国際アート・カルチャー都市プロデューサーのアドバイスをいただきながら「豊島区国際アート・カルチャー都市構想」を策定しました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、「文化戦略」「空間戦略」「国際戦略」の3つの戦略で構想を具体化し、「実現戦略」を策定していきます。



3つの戦略



アートオリンピアの開催



平成27年6月豊島区本庁舎にて、第1回国際芸術コンペティション「アートオリンピア2015」が開催されました。

東京・ニューヨーク・パリを拠点に、世界52か国から応募のあった約4,200点の作品のうち、一次審査を通過した240点の作品が、庁舎1階のセンタースクエアや回廊美術館にて展示され、最終審査は世界の美術関係者により、8階議場にて行われました。



～まち全体が舞台の誰もが主役になれる 劇場都市～

きつね、世界中から人が訪れ、楽しむことができる都市づくりを推進します。

国際アート・カルチャー都市構想を実現する “3本の矢” ……

第1の矢 国際アート・カルチャー都市プロデューサー

平成27年3月 国際アート・カルチャー都市構想を策定！

- ・行政にはない豊かで自由な発想を生かし、都市構想についてアドバイス。
- ・自ら都市の魅力を対外的に発信

＜芸術文化の最前線で活躍する11人のプロデューサー＞

相澤崇裕氏、猪子寿之氏、鈴木美潮氏、高井喜和氏、高橋 豊氏、橘 正裕氏
中村 園氏、前田三郎氏(チーフプロデューサー)、宮田慶子氏、湯川れい子氏、横澤大輔氏



第2の矢 国際アート・カルチャー都市懇話会

平成27年11月 国際アート・カルチャー都市懇話会 総勢31名 始動！
アート・カルチャーを先導する実現戦略の策定

《会長》 《6人の特別顧問》



近藤 誠一氏



小田島 雄志氏



隈 研吾氏



里中 満智子氏



野田 秀樹氏



写真：海田 悠



福地 茂雄氏

第3の矢 国際アート・カルチャー特命大使

平成28年1月 活動開始！

構想推進の裾野を広げるための区民レベルでの活動の担い手

1月現在
600名を超える応援団



第1回 国際アート・カルチャー都市懇話会 (庁舎8階議場にて)



国際アート・カルチャー特命大使認証式 (センタースクエアにて)

8 雑司が谷の未来遺産活動

雑司が谷の魅力

雑司が谷は、副都心池袋に近接していながら、四季を感じることができる豊かな自然や、古くから続く賑やかなお祭もあり、人情あふれる人々の触れ合いがあるまちです。変わりゆく時代の中で、変わらないもの大切さを教えてください。



法明寺の桜



雑司が谷七福神色紙



郷土玩具「すすきみみずく」

未来遺産登録と推進

日本ユネスコ協会連盟未来遺産登録

子どもたちが100年後の未来にも誇りを持って暮らせるよう、雑司が谷の古き良き伝統を継承し、自然と時代の変化を調和させる取り組み「雑司が谷がやがやプロジェクト」が、平成26年12月に(公社)日本ユネスコ協会連盟による厳正な審査を経て、プロジェクト未来遺産に登録されました。



未来遺産登録証伝達式・記念シンポジウム

未来遺産推進協議会

平成27年7月、地域に関連の深い団体が主体となり、「雑司が谷未来遺産推進協議会」が発足しました。協議会は、地域がまちの将来像を共有するとともに相互に連携し、未来の子どもたちに雑司が谷の歴史と文化を伝えていきます。

雑司が谷案内処

ケヤキ並木に古くからたたずむ「並木ハウスアネックス」の1室を借り受け、平成22年7月31日開設しました。このまちを訪れる方々への観光情報提供のほか、雑司が谷にまつわる資料・作品の展示など、地元の方にもまちの魅力を再発見していただけるような催しを展開しています。

としま案内人雑司ヶ谷

雑司が谷地区を案内するボランティアガイド団体。地元ならではの逸話や最新情報を聴くことができます。



雑司が谷案内処



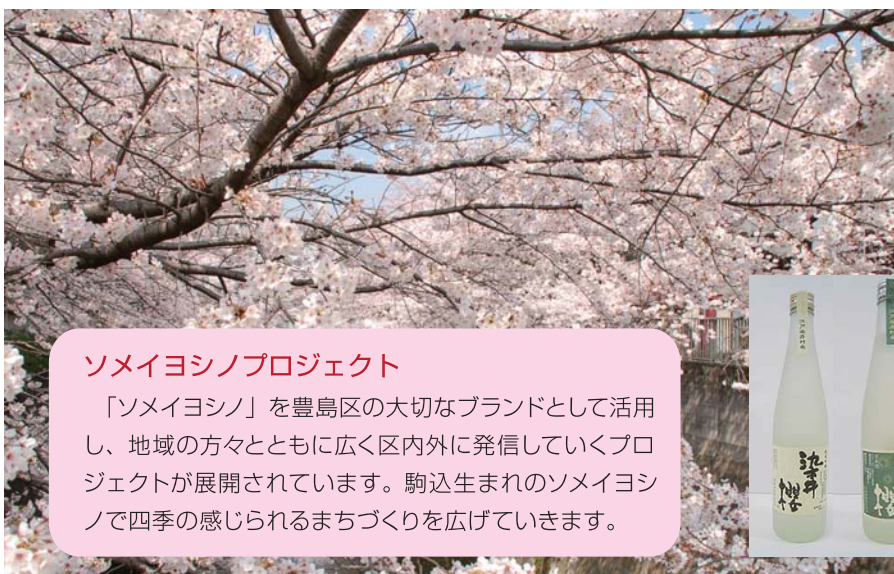
鬼子母神参道のケヤキ並木

9 豊島ブランド、街のシンボル

ソメイヨシノ

ソメイヨシノ発祥の地

現在日本に植えられている桜の約70～80%はソメイヨシノだと言われています。江戸時代の染井村（現在の豊島区駒込地域）は植木の里として知られ、多くの植木屋が軒を連ねていました。日本を代表する桜・ソメイヨシノは、江戸末期から明治にかけて、染井村の植木職人が、エドヒガンザクラとオオシマザクラの品種を改良して作ったといわれ、染井の地名を冠する桜として全国に広まりました。



染井吉野桜記念公園
「染井吉野桜発祥之里」碑

ソメイヨシノプロジェクト

「ソメイヨシノ」を豊島区の大切なブランドとして活用し、地域の方々とともに広く区内外に発信していくプロジェクトが展開されています。駒込生まれのソメイヨシノで四季の感じられるまちづくりを広げていきます。



江戸染井村発、春を告げるお酒 「染井櫻」

駒込の商店街有志が中心となり、ソメイヨシノ発祥の地のPRと街興しとなる商品として平成14年に誕生しました。

ふくろう

ふくろうによるまちづくり

豊島区は、まるでふくろうが羽を広げているような形をしています。子育ての神さま雑司が谷の鬼子母神では、江戸時代から「すずきみずく」が郷土玩具として育まれ、また区内各所には、ふくろうのモニュメントや像が設置されており、豊島区のブランドイメージの一つになっています。

豊島区のふくろうコレクションは、約1万5千点におよびます。区立南池袋小学校の一室の「豊島ふくろう・みみずく資料館」や区役所3階のふくろうコレクションで展示しています。

豊島区PRキャラクター



そめふくちゃん としまななまる

街の中の
ふくろう
たち



豊島ふくろう・みみずく資料館



区役所庁舎 3階 ふくろうコレクション



10 演劇・美術のまち

あうるすぽっと（舞台芸術交流センター）

舞台芸術の創造拠点

「あうるすぽっと」は豊島区が舞台芸術の創造・発信・育成の場として開設した301席の劇場を中心とした施設です。

アートマネジメント研修プログラムでは若い世代のキャリアアップに繋がり、地域との相互連携を目指した講座やワークショップでは、区内劇場と地域住民との信頼関係を醸成しました。平成22年度から続いたろう学校に通う生徒を対象としたワークショップから生まれた「鑑賞者」が、平成27年11月7日にニューヨーク公演を行い、高く評価されるなど、国際アート・カルチャー都市としての区の魅力を、海を越えて発信しています。



鑑賞者 NY 公演より

フェスティバル / トーキョー (F/T)

世界に誇る国際舞台芸術祭

国内で最大規模かつ国際水準の舞台芸術フェスティバルとして、国内外の新作・世界初演の演劇、ダンス等の公演や、池袋西口公園における野外イベントなどを実施し、“演劇の街”池袋を国内外へPRし、世界へ向けて、創造と発信を行っていきます。



撮影：松本 和幸

池袋演劇祭

誰でも参加できる地域密着型演劇祭

毎年約100名の審査員を公募し、演劇祭賞を決めていく、他に例のないユニークな地域密着型演劇祭です。

「誰でも参加できる」をコンセプトに“演劇の街”池袋を広くアピールし、若い演劇人を育成する場として充実を図っていきます。



撮影：久塚 真央

新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

池袋モンパルナスの精神を現代に

昭和初期、池袋には多くの若い芸術家たちが住んでいたことから、芸術家が集まっていたパリのモンパルナス地区にちなみ詩人の小熊秀雄に名付けられました。

今日の回遊美術館は、まちのどこもが美術館をコンセプトに、池袋モンパルナスの作家や現代若手芸術家、区内小学生の作品を展示し、かつて芸術家たちが創作活動の中で放った輝きを現代に甦らせ、未来に向けて発展させています。



かぶりもの大行進

11 マンガ・アニメの聖地

トキワ荘があった街

マンガ界の第一人者である手塚治虫氏、藤子不二雄 ㉔ 氏、藤子・F・不二雄氏、石ノ森章太郎氏、赤塚不二夫氏ら、現在のマンガ・アニメ文化につながる時代を切り拓いた巨匠たちが青春時代・下積み時代を過ごしたアパート「トキワ荘」は、当時の椎名町、現在の南長崎にありました。アパートは昭和57年に解体され現存しませんが、地域では「トキワ荘があったまち」を大切な地域文化として継承するとともに、地域活性化を図ろうと、さまざまな取り組みが展開されています。



トキワ荘通りお休み処

南長崎マンガランド事業

国内外にクールジャパンの原点をアピールしていくために、象徴スポットとなるトキワ荘の復元に向けた調査研究や、豊島区ゆかりのマンガ家が生み出したキャラクター像を地域の公園に設置するなど、南長崎地区の街全体でマンガを感じられる取り組みが進行中です。

マンガ・アニメ文化の発信地

池袋には女性を対象としたアニメグッズや同人誌を扱う乙女系の店舗が並ぶ「乙女ロード」と呼ばれる通りがあるなど、様々なアニメ関連施設が集積してきています。クールジャパンを代表するアニメとその原点であるマンガ文化の融合を図り、マンガ・アニメ文化の魅力を世界に向けて発信していきます。



フェス発信のサブカルチャー

秋になると、池袋を中心に、数万人が訪れる「乙女」のための大型ガールズフェスティバルや、世界中のコスプレイヤーが集まる池袋ハロウィンコスプレフェスティバルなど多くのイベントが開催されています。

平成27年秋には、アニメ、ゲーム、マンガ、シネマ、コスプレ、マルシェなど様々なイベントがひとつになった「池袋オータムカルチャーフェスティバル」が開催されました。

池袋を舞台に、自ら表現する人、誰かの表現を楽しむ人、まちに来る人、ネットで見ると、様々な形で参加者がフェスを体験し、非日常の中からも新たな潮流が生まれ続けています。



池袋ハロウィンコスプレフェスティバル



12 女性にやさしいまちづくり

としま鬼子母神プロジェクト

平成26年度、出産前からの切れ目のない子育て支援を展開していく「鬼子母神プロジェクト」をスタートさせました。「としま育児サポート手帳」の配布や結婚から出産・子育て応援サイト「としま見る知るモバイル」の開設などのほか、都内で初めて「ゆりかご・としま」事業をスタートさせました。また、27年5月には池袋保健所1階を改修し、女性のライフプラン形成や若者全体への健康支援に関する情報発信スペース「鬼子母神 plus」をオープンしました。安心して子どもを産み育て、子育ての喜びを実感できる、子育て支援をさらに充実させていきます。

としま見る知るモバイル



としま育児サポート手帳

ゆりかご・としま事業

妊娠中の不安を軽減し安心して出産が迎えられるよう、妊婦に保健師等によるゆりかご面接を行い、ゆりかご応援グッズをお渡しします。また、出産後には保育士等によるおめでとう面接を行い、子育ての相談等に対応するとともに誕生お祝い品をお渡しします。



ゆりかご・としま事業の面接



鬼子母神 plus (池袋保健所)

待機児童対策

仕事と育児を両立できる環境を整え、急増する保育需要にしっかりと対応していきます。平成29年度までに待機児童ゼロを達成することを目標に、また、その後もゼロを維持するため、必要に応じて認可保育施設を設置していきます。また、特別保育事業のニーズに対応していきます。



木の温もりあふれる保育室内 (東池袋第一保育園)

としま F1 会議

消滅可能性都市との指摘を受け、若年女性たちの声を「女性にやさしいまちづくり」に反映させるため、「としま F1 会議」を設置しました。子育てからワーク・ライフ・バランス、まちづくり、都市ブランディングなど幅広い提案を受け、11の事業を具体化しました。ワーク・ライフ・バランスの推進には事業所のトップの意識改革が重要との発想から「100 人社長会」を開催したり、新庁舎4階に子育て相談・情報スペース(子育てインフォメーション)を開設し、妊娠・出産から子育てまで、幅広い相談に応じ、適切な窓口・機関につなぐ「子育てナビゲーター」を配置するなどしています。



F1 とは、広告、放送業界のマーケティング用語で20歳から34歳までの女性を指す言葉。Fは「Female」の頭文字です。

サクラヌ biz

「サクラヌ」とは、「F1会議」が提唱した「豊島区女性のニックネーム」です。豊島区は、日本の桜の代表「ソメイヨシノ」の発祥の地なので「サクラ」と「女性らしくオシャレな響き」を掛け合わせて作られました。

「サクラヌbiz」は、「豊島区で起業したい、起業した、事業を運営している」女性を指し、重点的にビジネスサポートを行うため、「女性起業家・経営者の交流会」や「女性のための起業塾」を行います。



サクラヌ biz 応援プロジェクト～女性起業家交流会～



リノベーションまちづくり

「民間主導の公民連携型まちづくり」であるリノベーションまちづくりの手法を取り入れ、区内で増加する空き家、低未利用な公共施設等の遊休不動産を活用することで、都市・地域経営課題を解決し、住んで子育てして、働きながら暮らし続けられるまちの実現をめざします。

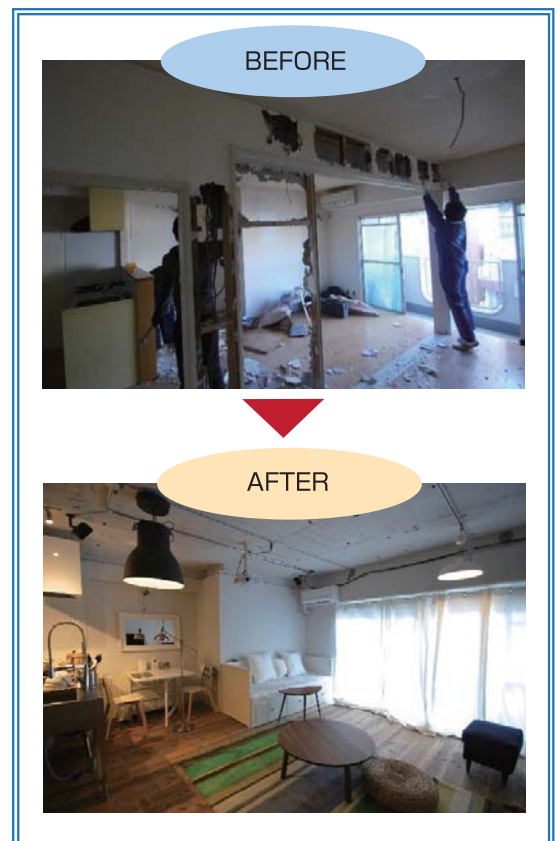
リノベーションまちづくりのエンジンとも言えるリノベーションスクールや不動産オーナーの普及啓発のための育成講座を継続的に開催していきます。



リノベーションスクール
公開プレゼンテーション

家守講座

カスタマイズ賃貸住宅 (DIY 住宅)



「ロイヤルアネックス」(東池袋)

女性目線の施策・事業展開に民間人材を登用

「女性にやさしいまちづくり担当課長」を設置し、民間経験者を登用します。女性ニーズの掘り起こし・分析といったマーケティングや、ブランディング、女性施策の戦略的な情報発信を行っています。

13 セーフコミュニティの展開

セーフコミュニティ国際認証取得

セーフコミュニティは WHO（世界保健機関）が推奨する、安全・安心まちづくりの国際認証制度です。

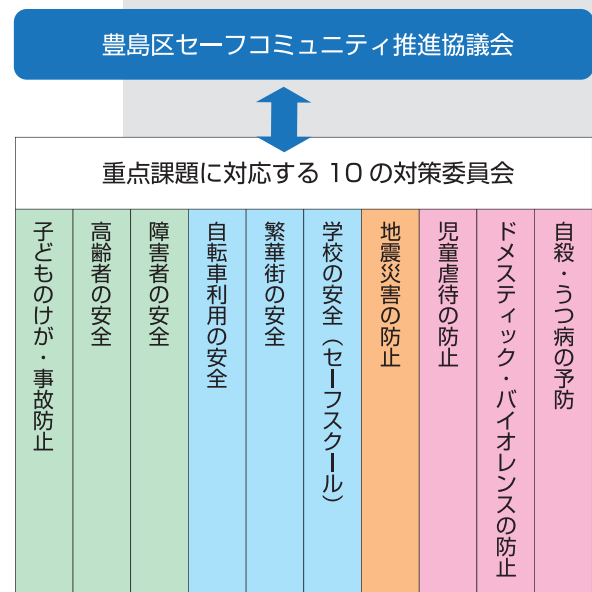
豊島区は、平成24年11月、世界で296番、日本で5番目、東京のような大都市では初めて認証を取得しました。「けがや事故等は、偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防することができる」との理念に基づき、人と人との絆を広げながら、安全と健康の質を高めていくまちづくり活動です。



セーフコミュニティ認証式典



セーフコミュニティの取組み



セーフコミュニティ推進の主体は、安全・安心に関する活動に取り組む幅広い組織や団体等で構成する「豊島区セーフコミュニティ推進協議会」です。

また、重点課題に対応して活動する10の「対策委員会」と、これら2つの組織の活動をデータ収集・分析の面からサポートする「外傷サーベイランス委員会」が設けられています。

世界共通の指標を設定し、不慮の事故やけがの予防について住民と行政とが連携・協働し、継続的な取り組みを行うことで、平成29年の再認証取得を目指しています。

●再認証に向けたスケジュール

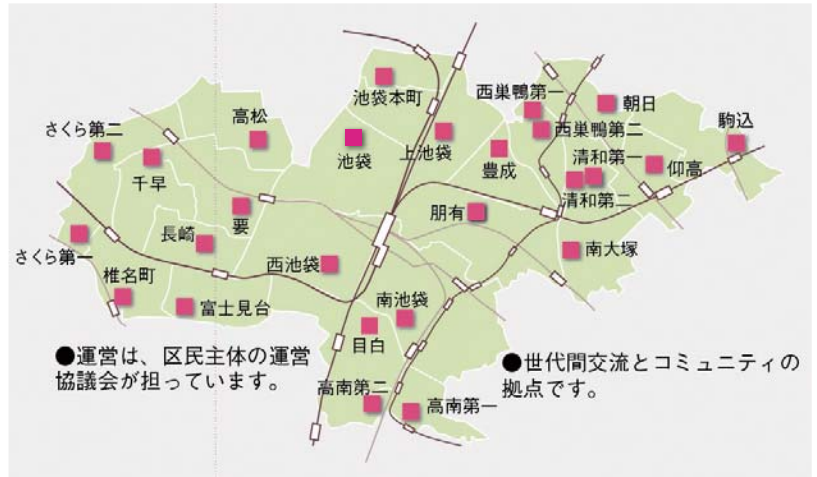
25 (2013) 年度	26 (2014) 年度	27 (2015) 年度	28 (2016) 年度	29 (2017) 年度
改善1 [テーマ]	改善2 [テーマ]	改善3 [テーマ]	準備 11月事前審査	準備 7月現地審査 11月再認証目標
成果指標の検証と具体化	連携・協働	活動の改善 (改善と効果の検証)	3月和文申請書作成 5月英文申請書提出	再認証申請書
他地域 SC 自治体・研究者等との連携				
年間レポート 2012・2013	年間レポート 2013・2014	年間レポート 2014・2015	年間レポート 2015・2016	

地域区民ひろばの展開

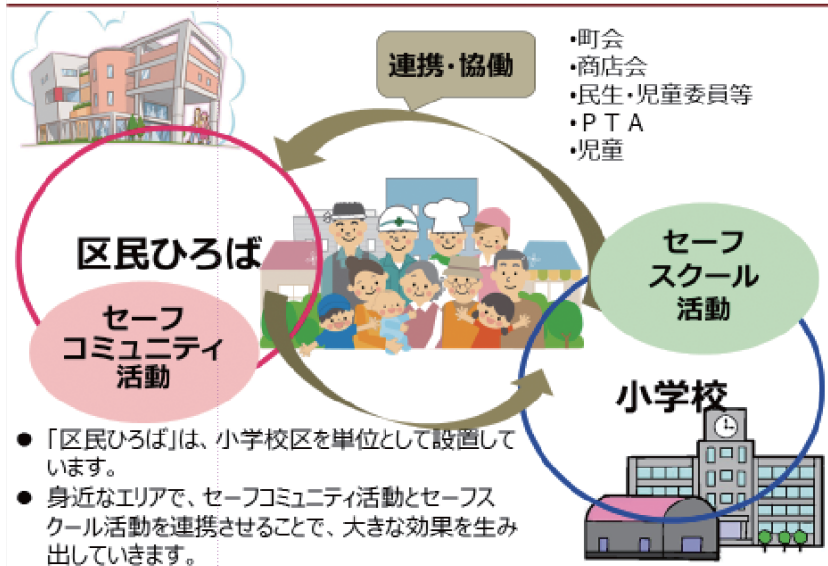
小学校区単位の地域区民ひろば

区内 22 全ての小学校区に設置された「地域区民ひろば」が、セーフコミュニティ活動の拠点として、対策委員会と連携し、けがや事故の予防につながる情報やプログラムを提供しています。

地域区民ひろばは、新たな世代層の利用を促進するため、日曜開館を順次行っています。



● 区民ひろばのセーフコミュニティ活動とセーフスクール活動との連携



地域区民ひろばにおけるセーフコミュニティ活動

インターナショナルセーフスクール

インターナショナルセーフスクールは、体・心のけがおよびその原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校づくりを進める活動で、学校単位で認証される制度です。

豊島区では、平成24年11月に朋有小学校が世界で103番目、日本で3番目となる国際認証を取得しました。その後、平成27年11月には富士見台小学校の認証取得と朋有小学校の再認証が決定しました。また、仰高小学校と池袋本町小学校が平成28年度の認証取得に向けて取り組みを開始しています。



小学校におけるセーフスクール活動

14 繁華街の安全・安心対策

危険ドラッグ撲滅運動

平成26年6月24日、池袋駅西口において、危険ドラッグを吸引したことが原因とされる多数の死傷者を出す悲惨な事故が発生しました。

これを機に、区では都、警察等関係機関、区民と協働して区内の安全・安心を阻害する危険ドラッグ撲滅に向けた対策を強化しています。

危険ドラッグを「売らない」「買わない」「使用しない」のルールの周知・徹底を図り、区内から危険ドラッグを撲滅するための施策を推進します。



区民の集い

販売店舗ゼロ宣言

- ・平成26年7月 違法ドラッグ・脱法ドラッグ撲滅都市宣言
- ・平成26年7月 「違法ドラッグ・脱法ドラッグ撲滅豊島区民の集い」開催
- ・平成26年8月 厚生労働省、東京都に危険ドラッグに対する取組み強化要請
- ・平成26年10月 区内警察署、区内不動産関係業界と危険ドラッグ撲滅に向けた覚書締結
- ・平成26年12月 豊島区危険ドラッグその他の危険薬物撲滅条例制定(27年3月施行)
- ・平成27年2月 「危険ドラッグ・暴力団追放豊島区民決起大会」開催

客引き行為等迷惑対策

区内繁華街における居酒屋、風俗店、カラオケボックスなどによる客引き行為などは、区民、来街者の安全・安心を阻害する要因となっています。

区では「客引き行為等の防止に関する条例」を平成27年3月に制定し、客引き防止指導員(豊島区繁華街警備隊)による区内繁華街パトロールの強化や警察官OBの活用を進めるなど、客引き行為等の迷惑行為に対する施策を強化し、区民、関係機関との連携を強化して、安全・安心な繁華街に向けた取組みを推進します。



繁華街パトロール

帰宅困難者対策

大規模な地震等の発生により鉄道等の公共交通機関が運行を停止した場合、多数の帰宅困難者の発生により、駅周辺では混乱が予想されます。

日頃から災害時における行動ルールを周知するとともに、「池袋駅周辺混乱防止対策協議会」を中心に、区・事業者・防災関係機関の連携により、情報連絡体制の整備、訓練の実施等、ソフト・ハード両面から対策を推進します。



帰宅困難者対策訓練

15 福祉基盤整備の推進

2つの特別養護老人ホームの整備完了・・・・・・・・・・・・・・・・

まとまった土地が少ない区内において区有地を社会福祉法人に貸し付け、区の東側と西側に1か所ずつ、計2か所の特別養護老人ホームを整備しました。

千川の杜

千川の杜は、千川小学校跡地を活用して、108床のユニット型特別養護老人ホームを整備し、平成27年4月に開設しました。都市型軽費老人ホーム、ショートステイ、防災拠点型の地域交流スペースを併設しています。(延床面積：5,640.84㎡、建物：地上3階建)



外観



エントランス

東池袋桑の実園

東池袋桑の実園は、旧中央図書館跡地を活用して、86床のユニット型特別養護老人ホームを整備し、平成27年11月に開設しました。ショートステイ、デイサービス、防災拠点型の地域交流スペースを併設しています。(延床面積：4,616.71㎡、建物：地上8階、地下1階建)



居室内



エントランス

超高齢社会への対応・・・・・・・・・・・・・・・・

豊島区の65歳以上人口は平成28年1月現在で約5万7千人、高齢化率は20.4%となっています。誰もができる限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう「地域包括ケアシステム」の推進を図るとともに、区外での特別養護老人ホームの整備を検討するほか、姉妹都市である埼玉県秩父市と連携して、日本版CCRCの「豊島区版」の実現に向けた調査・検討を始めています。

日本版CCRCとは…高齢者の皆さんが、自然豊かな地方に移住し、働いたり趣味をいかして社会参加をしながら健康でアクティブな生活を送り、医療・介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような住まいと地域です。「生涯活躍のまち」とも呼ばれています。CCRCは、英語のContinuing Care Retirement Communityの略です。



高齢者や家族を支援する
高齢者総合相談センター
(地域包括支援センター)

16 池袋第三小学校の整備

BEFORE



解体前の校舎（昭和 36 年建設、校地面積 6,402 m²）

AFTER



校舎全体

池袋第三小学校は、校舎の北側に立教大学・高校・中学校が集まる文教地区に位置しています。また、近隣には、上り屋敷公園や西池袋公園、谷端川南緑道など緑豊かな環境となっています。

新しくできる校舎のコンセプトは

- 立教大学の煉瓦を地域色ととらえ、煉瓦の使用を工夫した特色ある校舎をつくる
- 既存の緑と周辺の緑とのつながりを持たせ、地域の交流やふれあいの拠点をつくる
- 家庭的で温かみのある校舎で確かな力、心の豊かさと希望を育むです。

周囲の住宅環境とも調和のとれた地域に開かれた学校とします。



子どもスキップ（一階の一部）



校舎南側



体育館



普通教室前

スケジュール

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
基本設計・実施設計		26.8～仮設校舎（旧真和中）～28.12			
		解体	建設工事～28.12		
					29.1～開校

17

池袋本町地区校舎併設型小中連携校の整備

BEFORE



池袋中学校 昭和 33 年建設
校地面積 10,275 m²



旧池袋第二小学校 昭和 38 年建設
校地面積 8,264 m²



旧文成小学校 昭和 44 年建設
現池袋本町小学校
校地面積 4,891 m²

AFTER



校舎北側



校舎全体



小中共用の図書館
(学習情報センター)

池袋本町地区に位置する池袋第二小学校・文成小学校が統合してできた「池袋本町小学校」と池袋中学校を校舎併設型として改築します。小中が共有できる施設をシェアリングしながら、互いの独立性を担保しつつ、連携校として一体感のある学校とします。災害時には、防災まちづくりの拠点となるよう、緊急車両の通行が可能な歩道状空地の整備、安全な避難所となる施設の配置、広いグラウンドを整備します。

スケジュール

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度～
池袋第二小	基本設計・実施設計		建設工事		28.8～池袋中学校開校	池袋本町地区 校舎併設型 小中連携校
池袋中					28.8～池袋本町小学校開校	
文成小			池袋本町小学校 仮校舎 (池袋第二・文成統合新小学校)		解体工事・校庭整備終了後に 中学校校庭として使用予定	

人間優先の都市づくり

18 不燃化特区と特定整備路線の整備

木密地域の脆弱性を克服し、地震に負けない都市づくりが防災上の重要な課題です。既に東池袋四・五丁目地区、上池袋地区、池袋本町地区で居住環境総合整備事業を実施し、地域の安全性・防災性の向上に取り組んでいます。また、東京都の木密地域不燃化10年プロジェクトの「不燃化特区」に、既に指定を受けている4地区に加え、平成27年4月には雑司が谷・南池袋地区の指定を受けるとともに、補助26・172号線沿道地区では南長崎地区へ区域を拡大し、老朽建築物の除却や建替えなどに対して助成金を支給することなどにより、地域の不燃化を促進します。

BEFORE



補助172号線【西池袋区間整備前】

AFTER

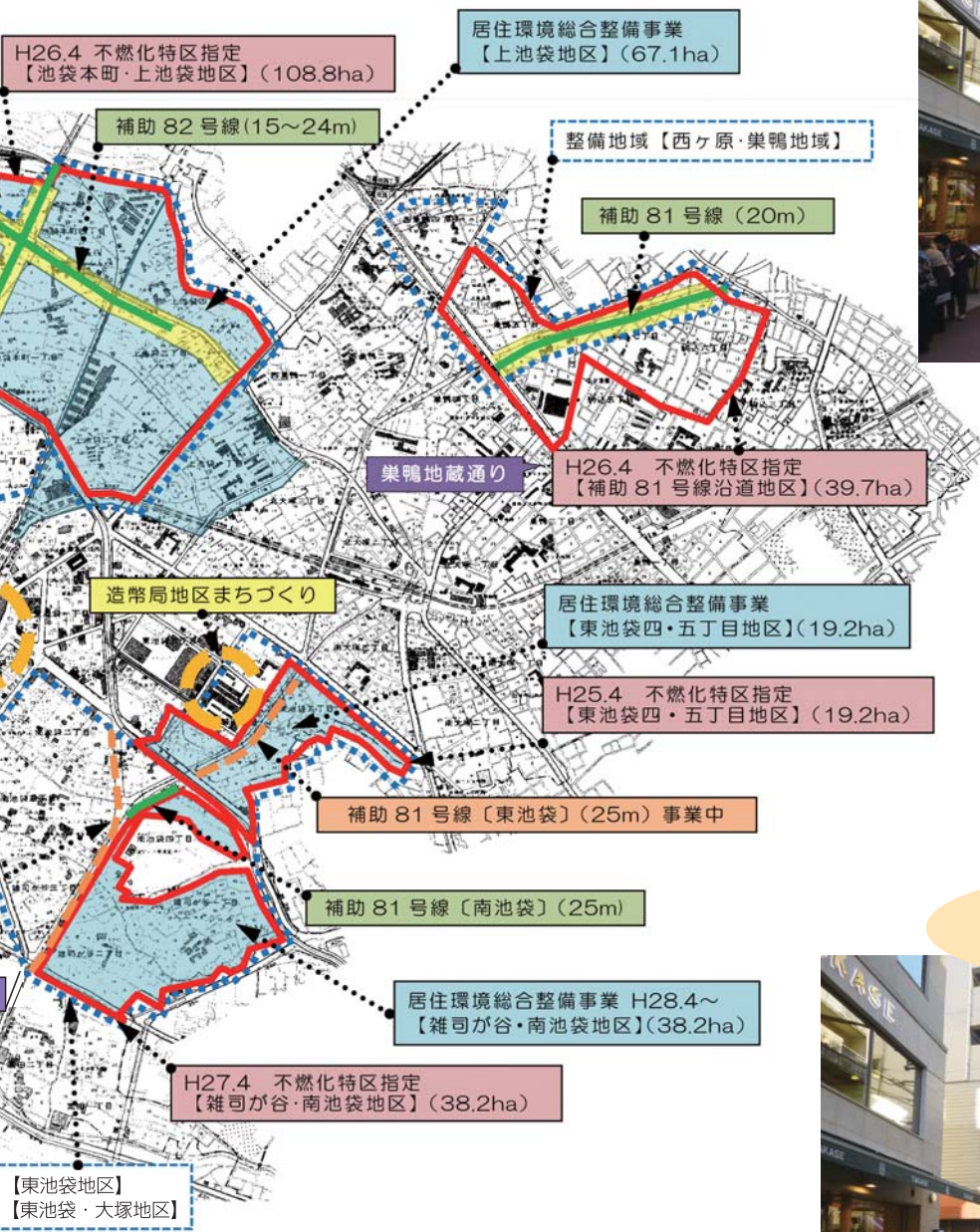


補助172号線【西池袋区間整備後】



19 街並みを変える無電柱化事業の推進

都市災害の防止、都市景観の向上、安全で快適な通行空間の確保といった観点から無電柱化に取り組み、開放的な都市空間を創出します。巣鴨地区の「巣鴨地蔵通り」、池袋地区の「立教通り」、目白地区の「学習院椿の坂」などを代表的な候補路線と位置付け、将来的には区内全域で無電柱化を実現し、「電柱ゼロ都市」を目指します。



NOW



巣鴨地蔵通り現状



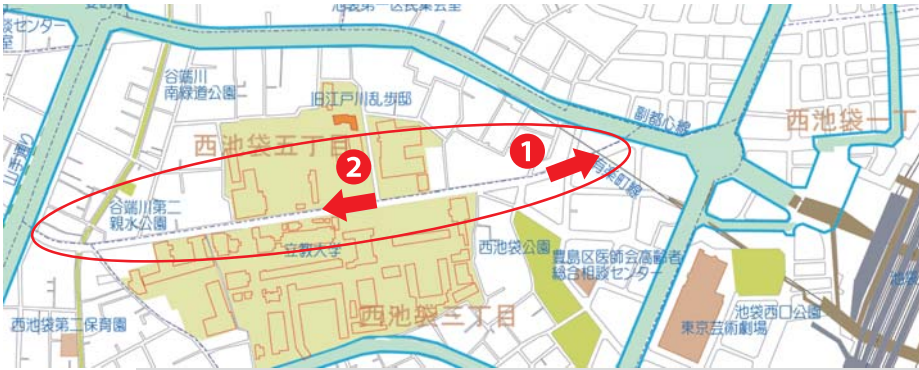
AFTER



整備後のイメージ

20 立教通りの整備

避難経路の整備、歩行者の安全性、交通体系の変化への課題のあった立教通りで、交通環境の改善を目的に、安全で快適な歩行者空間の整備を進めます。



整備前

整備後（イメージ）

1



2



スケジュール

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
基本設計	基本修正設計 関係者協議	実施設計 関係者協議		

21 大塚駅周辺の整備

大塚駅では、駅から街へとつながる歩行者優先のまちづくりを展開します。南北自由通路の完成、バス乗り場やタクシー・プールの再編に引き続き、JR 駅ビルに直結する南口地下自転車駐車場、南口駅前広場の整備など、魅力的で安心・快適な駅周辺空間を創出します。

NOW



南北自由通路（平成 21 年度完成）

AFTER



南口駅前広場地下（約 2,200 m²）を JR から無償で提供を受け、約 700 台規模の自転車駐車場を整備します。



大塚駅南口（自転車駐車場工事の様子）



大塚駅南自転車駐車場（仮称）整備イメージ

平成 25 年度に完成した駅ビル内には山手線沿線では初めてとなる駅直結型の認可保育所（民間）が設置されています。

スケジュール

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
南北駅前広場整備調査				
自転車駐車場工事				
		南口設計 南口整備工事		
			北口設計	北口整備工事

明日の豊島区のまちの姿

文化を基軸としてまちづくりを総合的にデザインし、発信することで



6 千川小学校跡地福祉基盤整備 (H27.4「千川の社」開設)



3 池袋駅東西デッキ (南デッキ) 整備



庁舎部分

1 新庁舎整備 (としまエコムーゼタウン)



区内7大学と豊島区との 連携・協働に関する包括協定

区と7大学(学習院大学、川村学園女子大学、女子栄養大学、大正大学、帝京平成大学、東京音楽大学、立教大学)は、相互の教育力の向上と、文化・芸術の多様性を活かした国際色豊かなまちづくりや、地域コミュニティの活性化の促進などに取り組みます。



6 高齢者福祉基盤等整備 (千川小学校跡地)

(仮称) 西部地域複合施設整備

東西デッキの整備

8 池袋第三小学校整備

南長崎スポーツ公園整備

南長崎マンガランド事業



南長崎スポーツ公園 (H25 開設)



トキワ荘通りお休み処



8 池袋第三小学校



目白小学校 (H26.10 新校舎)

「国際アート・カルチャー都市」へ加速



9 池袋本町地区校舎併設型小中連携校



11 大塚駅周辺整備



10 巣鴨地藏通り無電柱化



染井吉野桜記念公園



7 旧中央図書館福祉基盤整備 (H27.11「東池袋桑の実園」開設)



4 造幣局東京支局跡地整備



南北区道整備



5 南池袋公園整備



2 旧庁舎跡地周辺整備



2012 TOSHIMA CITY



セーフコミュニティ
国際認証都市・豊島区

豊島区 DATA

●歴史

昭和7年10月豊島区誕生

●面積・人口・世帯

面積：13.01 km²

人口：280,639人

(平成27年7月、昭和55年以来35年ぶりに28万人を突破)

世帯数：171,610世帯

※人口と世帯は平成28年1月1日現在の住民基本台帳

人口密度：21,571/km² (日本一の高密都市)

昼間人口：422,995人 ※平成22年国勢調査

●区の木・花 (昭和48年区民公募により選定)

区の木：ソメイヨシノ

区の花：ツツジ

●宣言

非核都市宣言 (昭和57年7月2日)

交通安全都市宣言 (平成11年10月13日)

男女共同参画都市宣言 (平成14年2月15日)

文化創造都市宣言 (平成17年9月22日)

虐待と暴力のないまちづくり宣言 (平成25年2月18日)

違法ドラッグ・脱法ドラッグ撲滅都市宣言 (平成26年7月4日)

発行：豊島区政策経営部企画課

〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1

TEL 03-3981-1111

